第3回長浜市総合計画審議会　議事要点録

Ⅰ　日　時　令和4年10月27日(木曜日)13時00分～15時20分

Ⅱ　場　所　長浜市役所3階　特別会議室

Ⅲ　出席者　鵜飼　修委員(会長)　岩嵜　博論委員(副会長)
山内　美和子　委員　廣部　恭子　委員　松居　弘次　委員
中山　郁英　委員　川瀬　寛子　委員　宮本　麻里　委員
森川　ゆり　委員　鳥塚　貴絵　委員　船崎　桜　委員
【オブザーバー】　堤　義定氏
【事 務 局】　横田総務部政策監、森総務部次長、柴田政策デザイン課長、
山﨑係長、小野副参事、野村主査、伊藤主査、池野主査、秋野主事

Ⅳ　内　容

１開会

２市長あいさつ

市　　長　　開催に当たりまして、一言ご挨拶申しあげます。

本日、皆さまには、大変お忙しい中、『長浜市総合計画審議会』にご出席いただき、ありがとうございます。

また、日ごろは、市政各般にわたり、特別のご支援、ご協力を賜り、この場をお借りしましてお礼申しあげます。

本日は、総合計画第 3 期基本計画につきまして、前回の審議会で皆様から頂いたご意見や、パブリックコメントでの意見を踏まえて最終案をとりまとめましたので報告させていただき、ご審議をいただきたいと思います。

前回の審議会で様々なご意見を頂戴する中で、ながはままちづくり目標「NCGs」の設定や、政策デザインの推進等を新たに記載し、本計画がより市民に分かりやすい、市民主体の計画となるよう進めてまいりました。

本計画は、長浜が、「若者にとって魅力あるまち」、「現在も、将来も魅力を感じられるまち」になるよう、重点プロジェクトをはじめ、本市の多様な地域資源をはじめとする「長浜らしさ」を生かして、持続可能なまちづくりの検討を進めていきたいと考えております。

今回、皆さまに慎重にご審議いただいた計画は、策定して終わりではなく、これからがスタートになります。この計画を推進し、具体的なアクションにつなげ、笑顔が満ちた、大発展する「県北の都」長浜市を目指してまいりますので、引き続き、ご協力をお願いします。

最後に、本日も、非常に短時間でご審議いただくことになりますが、ぜひとも活発に議論いただきますことをお願い申しあげまして、わたくしからのご挨拶とさせていただきます。

３ 議事

（1）　長浜市総合計画第3期基本計画（最終案）について

事　務　局　　＜資料（資料 1-1、1-2、1-3、1-4）に基づき説明＞

会　　長　　資料 1-2 通番 31 中の文章について、「国内外にも発信」ではなく「国内外に発信」が文脈に沿った正しい表現ではないか。

また、通番 38 について、「評価を可視化できる形でお示し、ご意見を伺いながら」という文言は、へりくだった言い方であるため、「評価を可視化できる形で提示し、意見を伺いながら」という文章でもいいのではないか。

事　務　局　　通番 31 については修正を行い、通番 38 については、全体の統一感を見ながら見直しを行い、他の文章との整合性を図りながら修正していく。

委　　員　　NCGs を設定したことはいいが、本編の初めにしか掲載されていないため、NCGs とまちづくりの政策が乖離しているように見えてしまう。各まちづくりの政策との関連性がわかるように、NCGs のアイコンを各施策のページにシールを貼るようなイメージで表示できるといいのではないか。

事　務　局　　仰るとおり、各政策に見えるように反映していくことも1つの案である。しかし、全部の政策に反映できるかどうかについては検討が必要であり、今後、製本作業を進めていく中で、本計画の見やすさも考えていくため、そこでどうしていくか考えていきたい。

事　務　局　　NCGs は重点プロジェクトだけでなく、まちづくりの政策の実現にも大きく関わりがあり、その関係性は非常に重要なものである。

その中で、NCGs の達成に向けて、今すべての政策内容を決めてしまうのではなく、今後4年を見据えて、重点プロジェクトを通して、社会に合った新たな取組を柔軟に実施したいと考えている。そのため、重点プロジェクトにはあえて具体的な内容を書いていない。

NCGs を各まちづくりの政策に貼ることも可能ではあるが、例えば、「NCGs ①「魅力ある仕事を創ろう」はまちづくりの政策のこれとこれ」というように貼ってしまうと、NCGs に関連する政策の内容が限定されてしまう。

現在行っている「魅力ある仕事を創ろう」の政策として、企業の立地促進や、稼げる農業の推進等があるが、今後、現在には無い、仕事を創るアイデアが必要であるため、NCGs を各政策に貼って紐づけるというよりは、今後、重点プロジェクトで各 NCGs の目標を達成できるような新しい政策を練っていきたい。

市　　長　　NCGs を各政策にわかるように紐づけるというのはとても良い視点である。

行政が作る計画は字ばかりでは読みにくいので、簡単に全体の構造が分かるような計画の見せ方も必要である。

しかし、事務局からも説明があったように、あえて紐づけせずに大きい視点で考えていきたいという思いがあるので、明記はしないが、とても良い視点として

参考にさせていただきたい。

事　務　局　　この計画本編は多くの字が並んでいるが、それをより市民に伝わりやすく、わかりやすくするための概要版の策定を予定している。

会　　長　　資料 1-2 の P4、5に NCGs の記載があるが、なぜNCGs を設定したのか、その理由や必要性が記載されていないため、NCGs が何かがわかりにくい。その説明文を本文中に記載すべきである。

事　務　局　　NCGs は、「 Nagahama Communities Goals（ながはままちづくり目標）」の略で、本市がめざすまちづくりの重点プロジェクト4つを8つのゴールに細分化することで、市民の皆さんに重点プロジェクトをよりわかりやすくお伝えし、市民の皆さんとともに各ゴールをめざすために設定したものである。

その説明が本文中に記載されていないため、追記させていただく。

会　　長　　NCGs と SDGs が混同してしまうので、どちらに注力するか明記してはどうか。SDGs は一般的なものであるが、せっかく長浜ならではの NCGs を設定したのであれば、NCGs を押し出してもいいのではないか。

事　務　局　　NCGs は『長浜に暮らす若者が、現在も、将来も魅力を感じられるまちを創る』という重点プロジェクトのゴールであり、SDGs とは目指すべき方向性が少し異なるため、資料 1-2 の P5に文章を補足させていただく。

委　　員　　NCGs を達成していく中で、SDGs の達成にも繋がるというストーリーの記載をしてはどうか。

事　務　局　　そのような文章を記載させていただく。

委　　員　　北部振興についてのビジョンがあまり感じられない。まちづくりの政策の中で、個別には主な取組等の記載があっても、それらが進む先にどうなりたいのか、どうしたいのかが明確でないので、そこを決めるべきではないか。

中心市街地はビジョンも策定されたため、北部にも北部のビジョンが必要であると感じる。

事　務　局　　北部振興は、市長政策提言や重点プロジェクトにも含まれる内容であり、今後、組織の強化も進めていく予定をである。

昨年度、過疎地域の拡大によって、「長浜市過疎地域持続的発展計画」を策定し、現状は過疎計画が北部の計画になっている。しかし、その計画はハードの補完が中心であり、まちづくりの方針についての具体的な計画は無いのが現状である。

頂戴したご意見は非常に大事な視点であるので、来年度の組織の強化も含め

て、進めるべき方向性を議論し、その中で、計画の策定も意識しながら進めていけたらと考えている。

市　　長　　私の政策提言である北部振興、病院、教育改革等については、全てにビジョンが必要であるが、現在それの見直しや策定を行っており、それがすぐに提示できるものばかりではない。

現在、様々な改革を進める中で、それらが一定出そろえば、大きな改革になると思う。そして、次の 10 年の基本構想につなげていきたいと考えている。

委　　員　　本計画内では鉄道とバスは、同じ交通ではあっても、別々に記載されている。

モビリティーという観点から、鉄道やバスといった交通手段にこだわらず、利用者視点に立って、使いやすく、移動がしやすい総合的な施策を考える必要があり、それは、地域住民だけでなく観光客にもメリットがあるので、その視点での検討が必要である。

また、資料 1-3 P146 に、「地域公共交通網形成計画」に基づいて進めるという記載があるが、その計画は本年度が終期であるため、その後はどうするのか。

事　務　局　　「地域公共交通網形成計画」については、新たなものを現在策定中である。その中で、鉄道やバスに限らない交通手段を含めて、計画を練るようにといった通知が国からも発出されているため、より広い分野での計画策定を行っている。

重点プロジェクトの「4　それぞれの地域が魅力を高め合う「持続的なまちづくり」プロジェクト」で、公共交通の話が出てきているが、例えば、買い物先まで行くための公共交通だけでなく、医療用 MaaS や買い物支援の民間連携等、サービスが市民のところへ行くような活用も踏まえ、公共交通だけでは補完できない部分も含めた対策を練っていきたい。

委　　員　　本計画内に「東京―長浜リレーションズ」についての記載が何点かあるが、この取組は非常に大切であり、東京に限らず、長浜を転出しても、地元、長浜との繋がりがあるということは重要である。

高校卒業後に長浜を離れてしまうという現状がある中で、高校によっては、東京に同窓会があって、高校卒業後も長浜との繋がりを持てるところもあるが、その同窓会の維持も大変になってきている。

この同窓会が無くなってしまうと、より一層地域との繋がりが無くなってしまうので、まだ繋がりがあるうちに、市も関わって、長浜を離れても継続的に繋がりが持てるような政策を考える必要があるのではないか。

事　務　局　　来年度、重点プロジェクトを進めるにあたり、若者の転出超過についての調査を進めていきたいと考えている。そこで、長浜を転出した人の声を聴くために、同窓会の活用は効果的である。

同窓会の運営に関して、行政がどう支援していくかというより、同窓会というコミュニティーの役割が果たせるような形になるように連携していくことも1つの手段であると考えている。

委　　員　　前回の審議会で、市の幹部の女性比率を明記してはどうかという意見があったが、子育て関係や、学生向けなど、様々な政策を考えていく際に、当事者の人と一緒に考えていくことは重要である。

どれだけより良い計画を策定しても、物事を決めたり進める中で、その根本の決め方や進め方、ガバナンスが変わらないと何も変わらない。

本計画に記載は無くても、その点をしっかり踏まえて今後の4年間を進めていくことで、現在行っている政策もよりよくなるのではないか。

事　務　局　　市の幹部の女性比率を目標にすることについては、女性のいる年代にバラつきがあることから目標数値の明記はできなかったが、女性・男性問わず、しっかりと意見を言える場にすることは重要である。

この審議会も4割以上の女性が入っていただき、他の会議でも女性の登用が多くみられる。今年度、「長浜市男女共同参画行動計画」が改定され、その中にも、女性の活躍について大きく明記しており、その計画の推進もしっかりと進めていきたい。

委　　員　　女性に限らず、多様な方が会議のメンバーに入ることが大事であると考えている。通常よくあるような、〇才以上の男性ばかりといった会議では、新しいアイデアは中々生み出しにくい。

現在、「福祉とデザイン」のテーマで、研究会を行っているが、名古屋市北区で「認知症フレンドリーコミュニティづくり」をされている方のお話の中で、会議の委員に認知症の方自身に入ってもらったお陰で、その会議が非常に豊かなものになったとお話されていた。

そのように、多様な人が話し合う場に入ることで、これまでにない新たなアイデアが生まれるということを意識して、政策に活かしていただきたい。

会　　長　　事務局から、本計画をどうしたら市民に自分事ととらえてもらい、なじみのあるものにできるかといったといた相談を受けている。その中で、本計画を市民に分かりやすくするために、子どもたちが遊べるようなものを創るのも1つである。

例えば、NCGs の8つと各政策がどのように繋がっているかを遊び感覚で見つけられるものであったり、概要版を切り取ってカードにしたり、長浜版人生ゲームがあっても面白いと思う。

委　　員　　自身の関わるところでも計画の見直しを行っており、やはり、若い人にいかに計画を見てもらうかが重要である。市民向けの概要版で、子どもでもわかるよう

に双六にしたり、将来がイメージしやすいような 10 年後の長浜のイラストを入れたりしてもいいと思う。

副　会　長　　この計画を市民にどう浸透させていくかというよりは、ボトムアップで、どれだけこの計画が議論の場に上がるかということが大切である。

計画が決まりごととして上から下に伝わるよりも、計画は1つのきっかけとして、市民が8つの NCGs のうち自分なら何ができるか、自身の活動はどれに当てはまるかといった議論が自然と発生して、それが大きな声になって実現に繋げていくようなものになると良い。

その方法として、アイコンの作成や、ビジュアルや色の力の活用は必要である。

また、タウンミーティング等で、8つの NCGs のテーマにそれぞれ沿って話し合いを行い、興味のあるものに市民が参加するといった、議論の仕組みを作ることも必要である。

委　　員　　毎年、人権学習の資料が作成されているが、大人向けと子ども向けの2種類作成されており、年々良くなっている。

大人向けでも分かりやすく親しみやすいようなイラストの活用や、色覚バリアフリーを踏まえた計画を策定することも必要であると思う。

委　　員　　県では、「すまいる・あくしょん」といって、子どもの笑顔を増やすための新しい行動様式を示し、7つの「あくしょんマーク」を設定している。

その7項目を達成するために、自分たちで何ができるかを親子で考えるワークショップやクイズ等を行っており、NCGs もこのように考える機会があれば良いと思う。

しかし、例えば「①魅力ある仕事を創ろう」であれば、対象が広すぎて、長浜らしさが感じられない。今後の協議や政策を進めていく中で具体的になっていくということは理解するが、NCGs をより自分事として考えられる言い回しや文言が記載できると良いのではないか。

また、本計画には、様々な働き方がある中での保育の充実や、子育ての不安を解消するための政策等が記載されているが、子育てに集中している人への支援策が多く、働きながら子育てをしている人への策が無い。

働きながら子育てをしている人は、園の先生とゆっくり話す時間もなく、平日の相談も中々利用できない。そのため、今後の支援策として、働きだした保護者に配する不安の解消やフォロー、横の繋がりが考えられると良いのではないか。

事　務　局　　働いている保護者のフォローについては、保育園や勤務先、また別の場所等のどこが支援していくのかという議論はあるものの、重要な視点である。

重点プロジェクト「③子どもと若者を包括的に応援する「未来のこども育成」プロジェクト」の「未来のこども」は今の若者も、これから産まれて来てくれる子も含

まれる幅広い意味を持つので、ライフステージごとにきめ細やかに支援していきたいと考えている。
そのために、働きながら子育てを行っている人へのフォローについても、重点プロジェクトの中で提案しながら進めていきたい、

委　　員　　資料 1-3 P131の「総合的な地球温暖化対策の推進」について、計画上は担当課が政策デザイン課と環境保全課の2課のみであるが、本来は全庁的に連携が必要であり、できれば1つの組織を作って、そこが司令塔として進めていくべきものであると考える。
　また、P163にも、「行政課題に対応できる組織機構の整備」としての記載があるように、課題にワンストップで取り組めるような組織体制を構築していくことで本計画の課題の解決に繋がると考えるので、その視点での行政運営をお願いしたい。

事　務　局　　現在、部局横断でやるべき内容が非常に多岐に渡っており、例えば、「未来のこども育成」については、以前は子育て＝健康福祉部であったものが、現在は教育委員会も深く関わっていく部分であり、他にはデジタル行政の推進や北部振興も、部局横断により進めていくことが必須である。また、脱炭素については、単に脱炭素を推進するだけではなく、この取組が地域振興につながるという意味で当課も関わっているものである。
　今回から、審議会副会長の岩嵜先生にもご協力いただき、資料 1-3 P168に「政策デザインの推進」という項目を新たに記載し、部局を超えた領域横断の取り組み（クロスアドミニストレーション）の推進を謳っている。この取組により、住民に寄り添ったアプローチを積極的に行っていきたい。

副　会　長　　部局横断がなぜ必要なのかというと、世の中がより複雑になり、見通しが不透明であるからである。そこにデザイン思考がどのように役に立つのかというと、横連携していく知恵があるからである。
　例えば、「人間中心」＝長浜市民中心で物事を考えること、「実験」として、これまでの行政のやり方である、しっかりどうするかを固めて失敗が無いように進めていく方法ではなく、プロトタイプで少しずつ試しながら進めていくという手法を使うこと、「未来志向」で市民にとって将来がどうあるべきかを考えること、それらが部局横断に繋がる仕組みである。
　先日、大学の授業で、西表市の政策デザインの実践を行った。テーマは子育てであり、そこでの課題も部局横断であった。その際の知見も共有しながら、長浜市でも活用していただきたい。

委　　員　　資料 1-3 P8の「長浜で結婚し子育てする夢を持てるよう、」という文言に違和

感を覚える。特に、「結婚」と「子育て」という言葉が連続する必要性が無いのであれば、結婚＝子育てではないので、分けた書き方の方が良いのではないか。

委　　員　先日発表された、人気の移住先ランキングでは、滋賀県、長浜市ともに4位という好成績であった。これは、長浜市の活動が認められてきた結果であり、実際に、長浜は子育てしやすいまちであるという声も聞く。

親としては、市外に出た子どもに無理に帰ってきてというのではなく、外で沢山学んでもらって、帰ってきたくなったらいつでも帰れるようにしておくという環境を作りたいと思っている。

そのため、「長浜で結婚」は置いておいて、「長浜で子育て」をアピールしてはどうか。

会　　長　本文中の「長浜で結婚し子育てする夢を持てるよう」という文言を削除すべきか。

事務局　確かに、多様なライフスタイルがある中で結婚と子育てが必ずしも繋がるものではないため、この表現は修正する。

長浜市を子育てがしやすいまちにしていくことは非常に重要なテーマであるが、同時に、長浜市が結婚しやすいまちであるか、市民が結婚に躊躇しているという状況がどれくらいあるかということも調査すべき事項であり、結婚も大きなテーマとして考えていきたい。

委　　員　結婚と子育てを結びつけることは、様々な事情の人がいる中で良い表現ではないと感じる。結婚については、出会いの場が少ない等の課題があり、その課題と子育てがしやすいということは別の話である。

結婚していなくても、自分の子どもがいなくても、子どもの発育支援に関わっている人は多くいるので、市として、誰もがみんなで、長浜の子どもたちを育てていこうという視点があると良い。

事務局　結婚や子育てに夢が持てない若者が多くいることは現状である。その中で、結婚や子育ての喜びや楽しみを経験する人生の選択肢もあること、それらを経験したいと思える夢を描けるような若者への支援も必要であると感じる。

多様な価値観があるため、その点も踏まえた表現にしていかねばならないと改めて感じた。

委　　員　パブリックコメントに里山に関する意見があったが、今の長浜は大人がついていないと子どもは遊べない環境になっており、子どもが自由に遊べる場所がどんどん減り、子どもが外で遊ぶ姿を見ることが少ない。

将来、長浜に帰ってきたい、長浜が好きと感じてもらうには、今の小学生や中学生が、自身の意思で遊び、学ぶ環境づくりが必要ではないか。今の環境が子どもたちにとって本当にいいのかを考えるべきである。

また、本計画を子どもや子どもに関わる人にどうすれば見てもらえるかを考える中で、QR コードを活用するなど、冊子だけではない見せ方も良いと思う。

会　　長　概要版を切り取って人生ゲームにするなど、子どもにも馴染みやすく、わかりやすいものが良い。

滋賀県立大学は、人を育てる大学ではなく、人が育つ大学であるとしている。

長浜市も、子どもを育てる「子育て」ではなく、子どもが育つ「子育ち」のまちづくりを行うという視点で、子どもが育つ環境をどう作るかを考えた方が効果的であると考える。

そして、子育ての負担を軽減する環境を創り、子育てが楽しいと感じられるまちになるように取り組んでほしい。

委　　員　NCGs を普及させるために、ピクトグラムのようなアイコンで表記できると良い。計画本編が文字ばかりであるため、目に訴えられるものを記載してはどうか。

計画の内容として、田村や神田の市南部の開発が目に留まるが、市北部や中部が取り残されている印象があるので、南部の開発で北部や中部がどうなるのかの記載があっても良いのではないか。

また、雇用創出の手法として企業誘致等の記載があるが、農林水産業は常に人を欲しがっているので、第1次産業にもつながる政策をお願いしたい。

会　　長　農業を機械化するという方法もあるのか。

委　　員　機械化によって便利になる部分もあるが、まだまだ人力でないといけない部分が多く、機械化が進んだからといって人手が不要になるものでもない。

特に、農業部門は高齢化による離職者も多く、常に求人を出している状況であるため、そういった面の雇用にも力を入れていただきたい。

会　　長　産業の起爆剤として、思い切った機械化の導入も1つの手段であると思う。

（2）　長浜市国土利用計画（案）の改定について（経過報告）

事　務　局　＜資料（資料 2-1、2-2）に基づき説明＞

委　　員　計画本編の記載内容が統一されていない箇所が複数ある。例えば、資料 2-2 P7（3）に、「自然環境を活用して地域の魅力を高める」といった文言があるが、P8 の（2）にはその内容の記載がないため、追記が必要ではないか。

事　務　局　追記する方向で進めさせていただく。

委　　員　上位計画である総合計画の内容が、国土利用に落ち切っていないように感じる。例えば、総合計画では、企業立地の推進を図ることや、チャレンジできる環境

を整えるとの記載があるが、それを行うには土地利用が必要である。しかし、今の長浜市の土地の利用区分別規模を見ると、森林や水面・河川・水路で7割を超えており、残りの半分を農地が占めており、宅地が少ない。

北部振興の話もあったが、北部地域は都市区域で無いため、新たに区域を設けてゾーニングをしたり、企業立地の場所のおおよその想定や、神田スマート IC の周辺の土地をどうしていくか等の総合計画との連動性が必要ではないか。

総合計画だけでは、無限に土地があるように感じるが、実際に利用できる土地は少なく、安くもないため、その部分を総合計画に記載するのか、総合計画に準じて農地の利用を制限し、宅地利用を促進していくのか等の進め方が必要であると感じる。

事　務　局　　まず、総合計画や国土利用計画等の他の計画の上位となる計画では、上位計画が個別計画の策定を阻害することにならないように、大きな書き方をしている部分がある。

例えば農地を大切にすると言うと、開発を抑制することになってしまい、宅地開発をするというと、農業の縮小や森林伐採に繋がってしまうため、明確な記載ができかねることから、具体的な内容は、下位計画の各個別計画で明記して、国土利用計画では「適切な土地利用を図る」という文言で進めていきたい。

北部振興については、資料 2-2 P17 6. 土地利用の転換の適正化の（3）で、「市域の都市機能の整備等に必要となる用地については、周辺環境への影響に十分配慮しつつ、計画的な調整を図る。」と記載し、北部に限ったことではないが、地域の都市機能を創っていく場合にその調整ができるように新たに追記した。

また、資料 2-2 P14のピンクの都市地域が南部にしかない状況であるが、必ずしも南部にしか都市地域を作らないというものではなく、P12に記載しているように、田園強制地域についても土地利用と連携した地域振興施策を進めていきたい。

委　　員　　総合計画の修正に対して、国土利用計画の修正が少なく、形骸化しているように感じる。下位計画に影響が無い程度にもう少し変更してもいいのではないかと思う。

会　　長　　資料 2-2 P14の都市交流ゾーンと山村交流ゾーンがそれぞれ丸で囲ってあるが、この範囲を示してしまうと、ここ以外はできない印象を受ける。今後、この場所以外にも展開していきたい部分が出てきた際にも柔軟に対応できるようは表現の方がいいのではないか。

事　務　局　　ゾーンの表現については検討させていただく。

総合計画の変更に対して国土利用計画の修正が少ないことに対しては、国土利用計画は総合計画を全てカバーしなければいけないものではなく、大きな総合計画に即した国土利用計画であるという点をご理解いただきたい。

委　　員　　計画内に、「低炭素」との言葉があるが、総合計画では「脱炭素」としているため、文言の統一をお願いしたい。

事　務　局　　「脱炭素」に統一させていただく。

委　　員　　計画内に「中心市街地」という文言が出てくるが、「中心市街地」の定義はどういったものか。

事　務　局　　中心市街地活性化基本計画の策定時に、市の中心市街地がどの部分であるかを明記したものである。

会　　長　　中心市街地活性化法ができた際に、各自治体でここを中心市街地にすると申請したところである。

委　　員　　再生可能エネルギーの導入促進区域を設定する「ポジティブゾーニング」があるが、長浜市も「ここの地域は再生可能エネルギーを積極的に誘致していく」といった検討はされたのか。

事　務　局　　現時点では明確な場所等が定まっていないことから、記載をしていない。

委　　員　　丹生ダム建設予定地であった場所の活用については県とも協議をされているところであると思うが、この地域の話はこの計画に記載しなくてよいのか。

事　務　局　　担当課と計画に記載するかについての検討を行ったところ、事業主体が国か、県か市かが明確になっていない部分もあり、今後4年間の国土利用計画には記載しないということで進めるものである。

会　　長　　「市街化調整区域内の活性化」という文言をどこかに記載した方がいいのではないか。そうすることで、都市計画マスタープランの策定時にも効果的である。
　市街化調整区域は、市街化を抑制する地域のため、農村集落が中心になるが、農村集落は基本的に農家住宅のみで、土地利用ができない。
　都市計画法の特例で地域の活性化に寄与するというものもあるので、市街化調整区域内の集落の活性化も視野に入れていってはどうか。

副　会　長　　全体の話として、今回の長浜市総合計画第 3 期基本計画の中に記載している「長浜に暮らす若者が、現在も、将来も魅力を感じられるまちを創る」という重点プロジェクトの考え方にある「将来も」という言葉が非常に重要であると感じてい

る。

昔の成長の時代は未来が明るく先も見えていたが、現在は将来のことを本気で考えなければならない。その将来とは 50 年や 100 年先のことも含まれ、その将来を見据えて我々が今できること、次の、その次の世代へ引き継いでいくことを考えていく必要がある。

長浜はそうやって歴史が続いてきたまちであるので、今の我々が次の 100 年を創る第一歩に立っているという気持ちで、豊かなまちが創っていけるとよい。

4 その他

事　務　局　　今後、12 月の定例月議会で長浜市総合計画第 3 期基本計画は議決を経て、令和5年度からの施行に向けて進めていきたい。

本会議は今回で終了となり、最後に答申を鵜飼会長より頂戴する。

事　務　局　　お忙しい中、ご意見、ご審議をいただきありがとうございました。

（総務部政策監）　私たちが気づかなかった課題の提起や、長浜の魅力や強みに改めて気づかせていただきました。

これまで、様々な会議に出てきましたが、本審議会は一番女性比率が高いと感じており、今日の審議会でのご意見を聞く中で、「私たちのことを私たち抜きで決めないで」という言葉を思い出し、子どもや若者、女性、しょうがい者、認知症の方等、当事者の話を聞きながら一緒に作っていくことが大事だと実感しました。

今後、「長浜市に暮らす若者が、現在も、将来も魅力を感じられるまち」の実現を目指して、社会情勢にも柔軟に対応しながら進めてまいります。

長浜市をよりよいまちにしていくため、引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

短い期間ではございましたが、本当にありがとうございました。今度ともよろしくお願いいたします。

5 閉会

以上